

令和5年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	「高等学校 新地理総合」 (帝国書院)		「標準高等地図」 (帝国書院)				
副教材等	新詳地理資料 COMPLETE2023 (帝国書院)		統計要覧 2023年版 (二宮書店)				

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

私たちが暮らす日本社会はいま、高度情報化や少子化・高齢化の進展、外国からの旅行者や労働者の流入などによって、大きく変化しつつある。また、地球環境問題をはじめとする様々な地球的課題にも直面している。地理では、これらの課題を自然環境と人々の生活を関連付けて科学的に考える。また、地図やGISの活用をはじめとする地理的技能を身に付けることも、地理を学ぶ大きな意義の一つである。学習を進めるにあたっては、地図帳を常に横に置き、地図を用いて考える習慣を身につけてもらいたい。また、統計を用いて科学的に諸課題を把握しようとすることも大切である。

2 学習の到達目標

- 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組を理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする事の大切について自覚などを深める。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組を理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学期	地図と地理情報システム	地球上の位置と時差 地図の役割と種類	<p>a:日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、方位と時差、地図や地理情報システムの役割や有用性について理解している。現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。</p> <p>b:地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>c:地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	定期考査	定期考査 ワークシート	ワークシート
	結び付きを深める現代世界	現代世界の国家と領域 グローバル化する世界	<p>a:現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きについて理解している。</p> <p>b:現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>c:現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	定期考査	定期考査 ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

	<p>生活文化の多様性と国際理解</p>	<p>世界の地形と人々の生活 世界の気候と人々の生活 世界の言語・宗教と人々の生活</p>	<p>a:世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。</p> <p>b:世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>c:生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	<p>定期考査</p>	<p>定期考査 ワークシート</p>	<p>レポート ワークシート</p>
<p>2学期</p>	<p>生活文化の多様性と国際理解</p>	<p>歴史的背景と人々の生活 世界の産業と人々の生活</p>	<p>a:世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。</p> <p>b:世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>c:生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	<p>定期考査</p>	<p>定期考査 ワークシート</p>	<p>ワークシート</p>

※令和4年度以降入学生用

	<p>地球的課題と国際協力</p>	<p>複雑に絡み合う 地球的課題 地球環境問題 資源・エネルギー問題 人口問題 食料問題 都市・居住問題</p>	<p>a:世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び都市・居住問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び都市・居住問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることについて理解している。</p> <p>b:世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び都市・居住問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>c:地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	<p>定期考査</p>	<p>定期考査 ワークシート</p>	<p>レポート ワークシート</p>
<p>3学期</p>	<p>自然環境と防災</p>	<p>日本の自然環境 地震・津波と防災 火山災害と防災 気象災害と防災 自然災害への備え</p>	<p>a:我が国をはじめ世界でみられる自然災害や生徒の生活圏でみられる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技術を身に付けている。</p> <p>b:地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>c:自然環境と防災などについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	<p>定期考査</p>	<p>定期考査 ワークシート</p>	<p>ワークシート</p>

※令和4年度以降入学生用

	生活圏の調査と地域の展望	<p>a:生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。</p> <p>b:生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>c:生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	定期考査	定期考査 ワークシート	レポート ワークシート
--	--------------	--	------	----------------	----------------

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

※令和4年度以降入学生用

学校番号	2001
------	------

令和5年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	4単位	年次	2年次または3年次
使用教科書	「新詳地理探究」(帝国書院)						
副教材等	新詳地理資料 COMPLETE2022(帝国書院)、地理統計要覧 2022年版 Vol.62(浜島書店)						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

中学校における社会科の学習をもとに、教科書・地図帳・資料集・統計も活用しながら学習をすすめます。特に地理の学習においては「どこに、なにが、なぜ分布しているのか」を踏まえて考察を深めることが求められます。したがって特に地図帳は重要な学習ツールとなります。常に地図帳を横に置き学習をすすめていきましょう。

2 学習の到達目標

- ・現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察する。
- ・地理的な技能を身につけ、自分の生活する地域や社会への理解を深める。
- ・現代世界の諸課題を認識するとともに、主体的に社会に関わろうとする意欲をもつ。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	世界の地理についての基本的な事柄を歴史的条件や文化・自然と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	現代日本の諸課題を歴史的観点から考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、地域社会や異文化の歴史・文化を尊重し、国際社会に生きる人間として主体的に考察しようとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期(二年次)	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・地形 ・気候 ・日本の自然環境 ・地球環境問題 	<p>a: 写真、地形図、雨温図などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、その特徴や相違点などを読み取ることができる。世界の地形や気候について、系統地理的にとらえる視点や考察方法、人間生活への影響などを理解し、その知識をみに着けている。</p> <p>b: 世界と日本の環境問題の原因、影響、対策について、自然環境の学習内容などと関連付けて多面的・多角的に考察し、特徴や地域的な分布、今後の課題などについて適切にまとめ、表現できる。</p> <p>c: 世界と日本の環境問題の原因、影響、対策に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的追究し、とらえようとしている。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
二学期(二年次)	資源と産業	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業 ・食料問題 	<p>a: 農林水産業の生産や分布の特徴に関する諸資料から、有用な情報を適切に選択し、農林水産業の現状や課題について適切に読み取ることができる。世界の農林水産業について、自然条件や社会条件の違いと関連付けて農業の地域区分や各農業の特徴を理解し、その知識を身につけている。</p> <p>b: 発展途上国や先進国及び日本の食料問題の状況とその成因を系統地理的にとらえる視点や考察方法を考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>c: 発展途上国や先進国及び日本の食料問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとする。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート

※令和4年度以降入学生用

	資源と産業	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー・鉱産資源 ・資源・エネルギー問題 	<p>a: エネルギー資源や鉱産資源の生産や分布に関する統計などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、資源ごとの特徴や問題点について読み取ることができる。世界のエネルギー・鉱産資源について、その種類や分布、主な利用法などを理解し、その知識を身につけている。</p> <p>b: 資源・エネルギー問題について、生産と消費の不均衡や利用法の課題、石油情勢の背景やこれからのエネルギー利用のあり方などを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>c: 資源・エネルギー問題について、生産・消費の不均衡をはじめとする問題の動向に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとする。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
三学期(二年次)	資源と産業、交通・通信と観光、貿易	<ul style="list-style-type: none"> ・工業 ・第3次産業 ・交通・通信 ・観光 ・貿易と経済圏 	<p>a: 工業生産や商業、サービス業の動向に関する統計などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、特徴や課題について読み取ることができる。工業、商業、サービス業の発展過程や種類、立地とその変化、現状と課題を理解し、その知識を身につけている。</p> <p>b: 工業の立地や発達に影響を及ぼす自然条件や社会条件をふまえて工業地域の発達と変化について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>c: 第3次産業について、近年の動向や地域差に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとする。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート

※令和4年度以降入学生用

<p>一学期(三年次)</p>	<p>人口・村落・都市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人口 ・人口問題 ・村落と都市 ・都市・居住問題 	<p>a: 人口ピラミッド、都市の地域構造などに関する統計や地図などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、特徴や課題について読み取ることができる。世界人口の分布と動態、人口構成の特色と人口転換のしくみ、村落と都市の立地条件や発達の背景・機能などを理解しその知識を身につける。</p> <p>b: 世界の人口問題・都市問題について、それぞれの課題を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>c: 発展途上国と先進国のそれぞれについて、人口問題・都市問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとする。</p>	<p>定期考査</p>	<p>定期考査</p>	<p>レポート ワークシート</p>
	<p>生活文化・民族・主権</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住 ・民族・宗教と民族問題 ・国家の領域と領土問題 	<p>a: 民族・宗教や領土に関する紛争のデータや事例などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、民族・領土問題における原因の相違点などについて読み取ることができる。国境と領域のきまり、日本の領域・領土、さまざまな国家の分類などを理解しその知識を身につけている。</p> <p>b: 世界の衣食住について、地域的差異の背景、その変化と世界的な画一化の要因を、自然環境や社会環境の変化などを踏まえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>c: 世界の衣食住の地域的差異、民族と宗教の分布や人々の生活との関係に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとする。</p>	<p>定期考査</p>	<p>定期考査</p>	<p>レポート ワークシート</p>

※令和4年度以降入学生用

<p>二学期(三年次)</p>	<p>現代世界の地域区分・現代世界の諸地域</p>	<p>・地域区分 ・中国、韓国・ASEAN 諸国 ・インド、西アジアと中央アジア ・北アフリカとサハラ以南アフリカ ・EU 諸国 ・ロシア ・アメリカ合衆国 ・ラテンアメリカ ・オーストラリアとニュージーランド</p>	<p>a: 各地域の産業・文化・民族・歴史などに関する統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これをもとに、各地域の特徴や近年の動向について読み取ることができる。各地域を構成する様々な事象を産業・文化・民族・歴史などの項目ごと整理して、その特色や課題を理解し、その知識を身につけている。</p> <p>b: 各地域の地域的特色や地球的課題を、項目ごとに整理して静態的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>c: 各地域の地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。</p>	<p>定期考査</p>	<p>定期考査</p>	<p>レポート ワークシート</p>
<p>三学期(三年次)</p>	<p>持続可能な国土像の探究</p>	<p>将来の国土の在り方 持続可能な日本の国土像の探究</p>	<p>a: 現代世界の抱える問題を把握し、統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、そこから有用な情報を適切に選択してこれをもとに諸課題を理解する。</p> <p>b: 現代世界の抱える課題や論点を項目ごとに整理して考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>c: 将来の国土の在り方やその持続可能性に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。</p>	<p>定期考査</p>	<p>定期考査</p>	<p>レポート ワークシート</p>

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

※令和4年度以降入学生用

学校番号	2001
------	------

令和5年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	「歴史総合 近代から現代へ」 (山川出版社)						
副教材等	ダイアログ歴史総合 (第一学習社)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・過去の一点一点が「現在」につながっていることを認識し、現代社会が直面する諸課題について主体的に考察し、より良い社会を構築する指針とする。 ・これから世界をフィールドに活躍する際に、現在自分が生きる国の歴史や在り方について必要な知識と理解を持つことにより、他国や異なる文化を理解し、尊重する姿勢を養うことができる。 ・歴史は実証的な学問である。つねに公正かつ客観的な視点を持ち、歴史的事象を多面的かつ多角的に捉えることができる柔軟な視点が必要である。 ・近現代史を深く学習することにより、グローバル化した世界の状況を読み取る。
--

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・近現代史を中心とする日本と世界の歴史の展開を理解するとともに、諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・近現代を中心とする日本と世界の歴史の展開を、地理的条件などとも関連付けて考察することを通して歴史的思考力を培い、現代の日本と世界が直面する諸課題について深く考察する力を養う。 ・グローバル化が進む現代において、平和で民主的な世界を構築するために国際社会に主体的に生きる人間としての自覚と資質を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	近現代の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	近現代の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する国民としての責任を果たそうとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	近代化と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・結びつく世界 ・近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 	<p>a: 主権国家の概念と現在の国家との比較をおこない、その違いについて理解を深めている。</p> <p>b: 地域別の活動を理解し、どういふ経緯で融合していくかをまとめている。</p> <p>c: 近代国家が形成される過程に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> ・明治維新と日本の立憲体制 ・帝国主義の展開とアジア 	<p>a: 19世紀末から20世紀初頭にかけての近代史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>b: 19世紀における植民地の意味とその構造を政治面と絡めて考察している。</p> <p>c: ヨーロッパの海外進出がもたらす新たな世界秩序について理解を深め、現代世界との関連性に関心を高めている。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
二学期	国際秩序の変化や大衆化と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦と大衆社会 	<p>a: 国際社会での日本の立ち居地、対応について確認しその内容を理解している。</p> <p>b: 1910年代～20年代の社会運動の高まりについて、経済の動向やデモクラシーの風潮を関連づけて多面的・多角的に考察する。</p> <p>c: 第一次世界大戦前後の世界の動向や日本の経済、社会について意欲的に調べ、日本の植民地の動向などを踏まえて1910年代の近代史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート

※令和4年度以降入学生用

		<ul style="list-style-type: none"> ・経済危機と第二次世界大戦 ・戦後の国際秩序と日本の改革 	<p>a: 第二次世界大戦の展開と戦時下の社会、植民地の動向などについての基本的な事柄を国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>b: 人類史上最悪の世界戦争に対して、どのような知恵をもって対処し平和を維持するかを思考している。</p> <p>c: 現代の国際関係との関連性に留意しながら、政治的、思想的対立と国家形成について意欲的に探究している</p>	定期考査	定期考査	レポート ワーク シート
三学期	グローバル化と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦と世界経済 ・グローバル化する社会 	<p>a: 第二次世界大戦後の基本的な事件や現象を身につけて現代世界の成り立ちを理解している。</p> <p>b: 具体的なデータをもとに国際社会の経年変化を捉え、冷戦時代とその後の変化をまとめている。</p> <p>c: 第二次世界大戦後の諸地域の変化と現在まで続く課題について意欲的に探究している。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワーク シート
		<ul style="list-style-type: none"> ・現代の課題 	<p>a: 冷戦体制の終焉、経済のグローバル化の進展、そして21世紀に入ってから日本・世界の政治・経済・社会の動向についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>b: 現代の諸課題を、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c: 現代の世界の動きを新聞・ニュース等で積極的に集め追求している。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワーク シート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和5年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	4単位	年次	2年次または3年次
使用教科書	「詳説日本史」(山川出版社)						
副教材等	「図説 日本史通覧」(帝国書院)						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

- ・過去の一点一点が「現在」につながっていることを認識し、現代社会が直面する諸課題について主体的に考察し、より良い社会を構築するヒントとする。
- ・これから世界をフィールドに活躍する際に、現在自分が生きる国の歴史や在り方について必要な知識と理解を持つことにより、他国や異なる文化を理解し、尊重する姿勢を養うことができる。
- ・歴史は実証的な学問である。つねに公正かつ客観的な視点を持ち、歴史的事象を多面的かつ多角的に捉えることができる柔軟な視点が必要である。

2 学習の到達目標

- ・日本の伝統と文化の特色についての認識を深めるとともに、諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・日本と歴史の展開を、地理的条件などとも関連付けて考察することを通して歴史的思考力を培い、現代の日本が直面する諸課題について深く考察する力を養う。
- ・日本の歴史を学ぶことを通して、グローバル化が進む現代において、平和で民主的な世界を構築するために国際社会に主体的に生きる人間としての自覚と資質を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	日本の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	現代日本の諸課題を歴史的観点から考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、地域社会や異文化の歴史・文化を尊重し、国際社会に生きる人間として主体的に考察しようとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期(二年次)	日本のあけぼの・古墳とヤマト政権	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の始まり ・農耕社会の成立 ・古墳文化の展開 ・飛鳥の朝廷 	<p>a: 国家形成にいたるまでの基本的な知識を身に付け、その過程を理解する。</p> <p>b: 文献資料や考古資料から客観的かつ多角的に情報を読み取ることができる。</p> <p>c: 国家形成にいたるまでの過程に関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
	律令国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・律令国家への道 ・平城京の時代 ・律令国家の文化 ・律令国家の変容 	<p>a: 律令に基づく政治体制や諸制度、国家仏教の興隆によりもたらされた仏教文化の持つ特色について基本的な知識を身に付ける。</p> <p>b: 文献資料を基に政治抗争の進展と土地制度の変容を読み取ることができる。</p> <p>c: 律令国家が形成されるまでの過程と地方支配の動揺について多面的・多角的に追究している。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
二学期(二年次)	貴族政治の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・摂関政治 ・国風文化 ・地方政治の展開と武士 	<p>a: 貴族を中心とする政治や社会の在り方と貴族の生活・文化を理解する</p> <p>b: 文献資料を活用し、地方支配の変質を客観的に読み取ることができる。</p> <p>c: 律令体制の変容や国際関係の変化、荘園の展開を踏まえて政治運営や武士の台頭を考察・追究している。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート

※令和4年度以降入学生用

	院政と武士の躍進・武家政権の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・院政の始まり ・院政と平氏政権 ・鎌倉幕府の成立 ・武士の社会 ・モンゴル襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化 	<p>a: 院政の政治構造、武家政権の成立過程および封建制度の成立などについて基本的な知識を身に付ける。</p> <p>b: 絵画資料や文献資料を読解し、武士の生活や土地支配をめぐる地頭と荘園領主との紛争、仏教の新たな展開を読み取る。</p> <p>c: 武家政権の成立過程およびその変容について、社会の変化を踏まえて多角的、客観的に考察・追究している。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
三学期(二年次)	武家社会の成長	<ul style="list-style-type: none"> ・室町幕府の成立 ・幕府の衰退と庶民の台頭 ・室町文化 ・戦国大名の登場 	<p>a: 諸産業の発達による中世社会の多様な展開や都市の発達を踏まえて、戦国期の日本の多様性を理解し、基本的な知識を身に付ける。</p> <p>b: 文献資料や絵画資料から東アジア世界との貿易や一揆の発生などが幕府や社会に与えた影響を読み取る。</p> <p>c: 庶民文芸の流行、戦乱の中で中央と地方の文化的交流の活発化を踏まえて、現代につながる地域文化の特色について考察・追究している。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
一学期(三年次)	近世の幕開け	<ul style="list-style-type: none"> ・織豊政権 ・桃山文化 	<p>a: 織豊政権の支配体制や桃山文化の特色について基本的な知識を身に付ける。</p> <p>b: 文献資料や絵画資料から、政策の内容や意図を読み取る。</p> <p>c: ヨーロッパや東アジアの動向、兵農分離策を踏まえて織豊政権の特色や意義、次の幕藩体制につながる影響を考察・追究している。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート

※令和4年度以降入学生用

	幕藩体制の成立と展開	<ul style="list-style-type: none"> ・幕藩体制の成立 ・幕藩社会の構造 ・幕政の安定 ・経済の発展 ・元禄文化 	<p>a: 諸産業や経済の発展を踏まえ、安定期の幕政の諸政策について理解する。</p> <p>b: 文献資料や絵画資料から諸産業および経済の発達、それに対する諸政策の内容や意図を読み取る。</p> <p>c: 文治政治の転換から元禄文化について、町人の経済的繁栄を踏まえ、社会の変化と関連させて考察・追究している</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
	幕藩体制の動揺	<ul style="list-style-type: none"> ・幕政の改革 ・宝暦・天明期の文化 ・幕府の衰退と近代への道 ・化政文化 	<p>a: 列強の接近に伴う対応や社会の変容を踏まえた、諸改革の内容を理解する。</p> <p>b: 文献資料・絵画資料などから幕府や諸藩の諸政策の内容やその意図、化政文化における近代化への萌芽を読み取る。</p> <p>c: 国際情勢の変化やそれに対する幕政の対応を踏まえて、幕府の衰退と雄藩の出現過程を考察・追究している。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
二学期(三年次)	近世から近代へ・近代国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・開国と幕末の動乱 ・幕府の滅亡と新政府の発足 ・明治維新と富国強兵 ・立憲国家の成立 	<p>a: 国際化の中で進められた近代国家の政治・社会・経済の発展について、問題点も含めて客観的に理解する</p> <p>b: 文献資料などから政府の諸政策の内容およびその意図、社会的影響などを読み取る。</p> <p>c: 東アジアをめぐる国際環境が変容する中、新政府の制度改革や経済政策などに着目して近代国家の基盤が形成されていく過程を考察・追究している。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート

※令和4年度以降入学生用

	近代国家の展開・近代産業と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・日清・日露戦争と国際関係 ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制 ・近代産業の発展 ・近代文化の発達 ・市民生活の変容と大衆文化 	<p>a: 各戦争が日本の社会や経済にもたらした影響についてその内容もふくめて客観的な知識を身に付けている。</p> <p>b: 文献資料などから政府当時の国際情勢と日本政府の動向を客観的に読み取る。</p> <p>c: 国際環境の推移を踏まえ、政府の国内・対外政策について日本の立場に着目して考察・追究している。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
	恐慌と第二次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> ・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦 	<p>a: 恐慌などの経済的事象や大戦についての基本的な知識を身に付け、客観的にかつ公正に理解する</p> <p>b: 文献資料などから政府当時の国際情勢と政府の対応について客観的に読み取る。</p> <p>c: 日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について客観的に考察・追究している</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
三学期(三年次)	占領下の日本	<ul style="list-style-type: none"> ・占領と改革 ・冷戦の開始と講和 	<p>a: 戦後の占領政策や冷戦の開始と講和について客観的な知識を身に付け、理解する。</p> <p>b: 文献資料などから、諸政策の内容や意図を読み取る。</p> <p>c: 戦後の世界秩序と東アジア情勢の変化を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革の経緯と内容、日本が独立した意義について客観的に考察・追究している。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
	高度成長の時代	<ul style="list-style-type: none"> ・55年体制 ・経済復興から高度経済成長へ 	<p>a: 国際社会の動向を背景に国内の政治や経済、外交の諸現象についての知識を身に付け、客観的に理解する。</p> <p>b: 文献資料などからその内容と意図を読み取る。</p> <p>c: 国際社会の動向や経済復興を、政治・外交、生活の変化などに着目して考察する。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート

※令和4年度以降入学生用

<p>激動する世界と日本</p>	<p>・経済大国への道 ・冷戦の終結と日本社会の変容</p>	<p>a: 国際社会の動向を背景に国内の政治や経済、外交の諸現象についての知識を身に付け、客観的に理解する。 b: 文献資料などからその内容と意図を読み取る。 c: 冷戦体制の終結とそれに関わる国内外の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて、多面的、多角的に考察・追究している。</p>	<p>定期考査</p>	<p>定期考査</p>	<p>レポート ワークシート</p>
------------------	------------------------------------	---	-------------	-------------	------------------------

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	2001
------	------

令和5年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	4単位	年次	2年次または3年次
使用教科書	新詳「世界史探究」 (帝国書院)						
副教材等	アカデミア世界史 (浜島書店)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・歴史は繰り返す。歴史に学び、現代の世界を読み解く。現代社会が直面する諸課題について、主体的に考察し、よりよい社会を構築するヒントとする。 ・これから世界をフィールドとして社会に出ていく際に、多角的な視野を持ち、異なる文化を理解し、尊重する姿勢を養うことができる。

2 学習の到達目標

<p>歴史的思考力を高め、その法則性を感じ取る。 人類の営みを古代から学習し、繰り返されてきたグローバル化の特徴を理解し世界を読み取る。</p>

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件と関連付けながら理解し、その知識を身に着けている。	世界の諸課題を歴史的観点から考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、地域社会や異文化の歴史・文化を尊重し、国際社会に生きる人間として主体的に考察しようとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知 (a)	思(b)	主(c)
二年一学期	東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質	<ul style="list-style-type: none"> ・中華文明の形成 ・秦漢帝国と東アジア ・中央ユーラシアと遊牧国家 ・遊牧帝国の興亡と移動 ・ユーラシアの変動と東アジア 	a:各王朝の特徴を理解している b:各王朝の特徴について考察し、自分の言葉で表現している c:東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を地主体的に追及しようとしている。	定期 考 査	定期 考 査 レ ポ ー ト	レ ポ ー ト ワ ー ク シ ー ト
	南アジアと東南アジアの歴史的特質	<ul style="list-style-type: none"> ・南アジアの文明と国家形成 ・東南アジアの社会と国家形成 ・ 	a:南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解している b:南アジアと東南アジアの歴史的特質について考察し、両者の共通点や相違点を挙げながら自分の言葉で表現している。 c:東南アジアの歴史的特質を主体的に追及しようとしている。	定期 考 査	定期 考 査 レ ポ ー ト	レ ポ ー ト ワ ー ク シ ー ト
二年二学期	西アジアと地中海周辺の歴史的特質	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエント文明の興亡 ・地中海周辺の国家形成 ・地中海周辺と西アジアの帝国 ・ヨーロッパへ広がるキリスト教 ・イスラームの誕生 	a:西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している b:西アジアと地中海地域周辺の歴史的な特質について考察し、自分の言葉で表現している。 c:西アジアと地中海周辺の歴史的特質を主体的に追及しようとしている。	定期 考 査	定期 考 査 レ ポ ー ト	レ ポ ー ト ワ ー ク シ ー ト

※令和4年度以降入学生用

	ユーラシア大交流圏の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム世界の拡大 ・ヨーロッパ封建社会の展開 ・東アジア諸地域の成長と自立 ・ユーラシア大帝国の出現 	<p>a: イスラームとモンゴルによって形成された陸と海のネットワークを理解している。</p> <p>b: イスラームとモンゴルによるネットワークの広がりユーラシアや諸地域をどのように変えたかについて考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>c: ユーラシア大陸をつなぐネットワークについての理解を主体的に追及しようとしている。</p>	定期 考 査	定期 考 査 レ ポ ー ト	レ ポ ー ト ワ ー ク シ ー ト
二年 三 学 期	アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出	<ul style="list-style-type: none"> ・明の国際秩序と東・東南アジア ・世界帝国しんとアジア諸国の成熟 ・スペインとポルトガルの進出 ・イスラーム世界の成熟 ・ルネサンスと宗教改革 ・主権国家の形成と「17世紀の危機」 ・東欧諸国の台頭とヨーロッパ文化の成熟 ・イギリスとフランスの覇権争い 	<p>a: 14～17世紀にかけてアジア諸地域間の交易が拡大したことを理解している。17～18世紀のヨーロッパの社会構造の変化を理解している。</p> <p>b: 交易の拡大による諸地域の変化のうち、最も大きな変化について根拠を示しながら自分なりに評価し、表現している。17～18世紀のヨーロッパの社会構造の変化に大きな影響を与えたものは何かについて考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>c: アジア諸地域間の交流について主体的に追及しようとしている。17～18世紀のヨーロッパの社会構造の変化を主体的に追及しようとしている。</p>	定期 考 査	定期 考 査 レ ポ ー ト	レ ポ ー ト ワ ー ク シ ー ト
三年 一 学 期	環大西洋革命 工業文明と国民国家の誕生	<ul style="list-style-type: none"> ・世界で最初の工業化 ・アメリカの独立 ・フランス革命と国民国家の誕生 ・ラテンアメリカへの革命の波及 ・イギリスの覇権と自由主義 ・ヨーロッパに広がる国民国家 ・アメリカ合衆国の拡大と国家統合 	<p>a: 大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響を理解している。</p> <p>b: 大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響について考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>c: 大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響を主体的に追及しようとしている。</p>	定期 考 査	定期 考 査 レ ポ ー ト	レ ポ ー ト ワ ー ク シ ー ト

※令和4年度以降入学生用

	世界の一体化の進展とアジアの変容	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム王朝の解体と変容 ・南・東南アジアの変容 ・東アジア諸国の模索と変容 ・帝国主義と世界分割競争 ・アジア知識人による体制改革の試み ・ 	<p>a: 「西洋の衝撃」がアジア諸地域に与えた影響を理解している 帝国主義が世界各地に与えた変化について理解している。</p> <p>b: 「西洋の衝撃」によるアジアの変化で、最も重大だと思うことについて、根拠を示しながら自分なりに評価し、表現している。</p> <p>c: 「西洋の衝撃」がアジア諸地域に与えた影響を主体的に追及しようとしている。 帝国主義が各地に与えた変化について、主体的に追及しようとしている。</p>	定期 考 査	定期 考 査 レ ポ ー ト	レ ポ ー ト ワ ー ク シ ー ト
三年一学期	世界大戦の時代	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦と社会主義革命 ・第一次世界大戦とアジアのナショナリズムの展開 ・大衆社会の到来とファシズムの出現 ・第二次世界大戦とその惨禍 	<p>a: 二度の世界大戦が起こった理由を理解している</p> <p>b: 第一次世界大戦の反省を踏まえた平和への取り組みは成功せず、第二次世界大戦が起こった理由について考察し、表現している。</p> <p>c: にどの世界大戦が起こった理由を主体的に追及しようとしている。</p>	定期 考 査	定期 考 査 レ ポ ー ト	レ ポ ー ト ワ ー ク シ ー ト
	戦後の国際秩序と冷戦	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦の展開と平和の模索 ・集団安全保障と冷戦の展開 ・多極化の始まり ・新しい国際秩序を求めて 	<p>a: 冷戦期から現在まで世界各地で発生した紛争を理解している</p> <p>b: 冷戦構造が形成される中で、アメリカ・ソ連・ヨーロッパ・第三勢力諸国の動きが冷戦構造に与えた影響について考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>c: 冷戦期から現在までの紛争の原因と解決方法について、共通点や相違点に着目しながら考察し、課題解決の方法を主体的に追及しようとしている。</p>	定期 考 査	定期 考 査 レ ポ ー ト	レ ポ ー ト ワ ー ク シ ー ト

※令和4年度以降入学生用

<p>三年三学期</p>	<p>グローバル化する国際経済とその課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦下の経済秩序と格差 ・グローバル経済の光と影 ・情報と科学技術によって結びつく世界 ・地球世界の課題の探究 	<p>a: 国際経済のグローバル化を理解している</p> <p>b: 冷戦終結以降のグローバル化がもたらした功績と課題、その課題が生じた理由について考察し、表現している。</p> <p>c: グローバル化に向かう世界経済に生じている課題について考察し、課題解決の方法を主体的に追及しようとしている。</p>	<p>定期 考 査</p>	<p>定期考査 レポート</p>	<p>レポート ワークシート</p>
--------------	--------------------------	---	---	-----------------------	----------------------	------------------------

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	2001
------	------

令和5年度 公民科

教科	公民	科目	公共	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	高等学校 公共 (第一学習社)						
副教材等	最新公共資料集 (第一学習社)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・探究心を持って、学習にのぞむ。 ・学習内容が、自らの生活、社会観につながっていることを意識し考える。 ・学習を通し、自らの生きかたを創造するとともに、未来の社会を形成する一員であることを考える。
--

2 学習の到達目標

<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
--

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1編 公共の扉	第1章 公共的な空間をつくる私たち I 公共的な空間と人間とのかかわり 1社会に生きる私たち 2個人の尊厳と自主・自律 3多様性と共通性 4キャリア形成と自己実現	a:・人生の中で青年期はどのような意味をもつのか、自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いのさまざまな立場を理解し高めあうことのできる社会的存在であることを理解している。 b:・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 ・孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生きるとともに、異文化などの他者との協働により、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察、表現している。	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	課題提出
		II 社会に参画する自立した主体として 1伝統や文化とのかかわり	a:自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともに、よりよい社会の形成に結びつくことについて理解している。 b:伝統や文化と自らの行動様式や価値観との関係について考察している。 c:公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	課題提出 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

1 学 期	第 1 編 公 共 の 扉	<p>第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方</p> <p>I 人間としてのあり方生き方についての探求</p> <p>1人間と社会のあり方についての見方・考え方</p> <p>2実社会の事例から考える～環境保護</p> <p>3実社会の事例から考える～生命倫理</p>	<p>a:・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。</p> <p>・環境保護や生命倫理に関する事例をもとに、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、選択・判断の手掛かりとしての2つの考え方をもとに、行為者自身の人間としてのあり方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。</p>	定期 考 査 確 認 テ ス ト		
		<p>II 選択・判断の手がかりとなる倫理的価値</p> <p>1公共的な空間を形成するための考え方</p> <p>2よりよく生きる行為者として活動するために</p>	<p>a: 人間としてのあり方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。</p> <p>b: ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験などを通して、多面的・多角的に考察、表現している。</p> <p>・幸福、正義、公正などに着目して考えている。</p> <p>c: 公共的な空間でどのように生きるかについて、先哲の生き方などを参考に、人間としてのあり方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	定期 考 査 確 認 テ ス ト	定期 考 査 課 題 提 出	課 題 提 出 振 り 返 り シ ー ト

※令和4年度以降入学生用

1学期	第1編 公共の扉	<p>第3章 公共的な空間における基本的原理</p> <p>I 自立した主体となることに向けて</p> <p>1人間の尊厳と平等</p> <p>2個人の尊重</p> <p>3民主政治の基本的原理</p> <p>4法の支配</p> <p>5自由・権利と責任・義務</p>	<p>a: ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。</p> <p>・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。</p> <p>b: ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。</p> <p>・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	
		<p>II よりよい公共的空間づくりをめざして</p> <p>1世界のおもな政治体制</p> <p>2日本国憲法に生きる基本的原理</p>	<p>a:個人と国家・社会との関係から、世界のおもな政治体制について、自己のあり方生き方と民主主義がどのように関係しているか理解している。</p> <p>c:公共的な空間における基本的原理と日本国憲法の基本的原則を関連させながら、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	定期考査 確認テスト		課題提出 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

1学期	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	<p>第1章 法的な主体となる私たち</p> <p>主題1 法や規範の意義と役割</p> <p>1 私たちの生活と法</p> <p>2 法と基本的人権</p> <p>3 自由・平等と法・規範</p> <p>4 法をよりよく変えていくために</p>	<p>a: ・法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法には国家と国民の間を規律する公法や、私人間を規律する私法などがあること、法は刑罰などによって国民の行為を規制し社会の秩序を維持するだけでなく、国民の活動を積極的に促進し、紛争を解決するなど、日常生活に密接に関連していることを理解させる。 ・基本的人権が保障されるにいたった経緯を、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 <p>b: ・生徒に身近な紛争や課題を取り上げ、どのようにすれば公平・公正に調整できるのか、主体的なルールを作成・利用することで考察、構想、表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法をよりよく変えていくために、自由権の意味や、社会権が私たちの生活をどのように変えたのか、新しい人権とは何かをさまざまな立場に立って考察している。 ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。 <p>c: 法や規範の意義と役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	課題提出 振り返りシート
		<p>主題2 契約と消費者の権利・責任</p> <p>1 さまざまな契約と法</p> <p>2 消費者の権利と責任</p>	<p>a: ・成年年齢が18歳以上になったことに対し、成年年齢の意味と成年の責任について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	課題提出 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

1 学期	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	<p>主題2 契約と消費者の権利・責任</p> <p>1さまざまな契約と法</p> <p>2消費者の権利と責任</p>	<p>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</p> <p>b：・家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>c：契約と消費者の権利・責任について、現代の諸課題を具体的な例をもとに、主体的に解決しようとしている。</p>	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	課題提出 振り返りシート
		<p>主題3 司法参加の意義</p> <p>1裁判所と人権保障</p>	<p>a：・国民の権利を守り、社会秩序を維持するために、公正な裁判が保障され、法律家が重要な役割を果たしていることを理解している。</p> <p>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</p> <p>b：・検察審査会や国民の司法参加の意義など、具体的な主題を設定し、その主題を追究・解決するために考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p> <p>・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を決定し、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p> <p>c：司法参加の意義について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	課題提出 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

2 学 期	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	<p>第2章 政治的な主体となる 私たち</p> <p>主題4 政治参加と公正な世論の形成</p> <p>1選挙の意義と課題</p> <p>2政治参加と世論形成</p> <p>3国会と立法</p> <p>4内閣と行政の民主化</p> <p>5地方自治と住民の福祉</p>	<p>a：・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</p> <p>・選挙権年齢が18歳以上であることを踏まえ、選挙の意義や、政治的無関心の危険性などについて理解している。</p> <p>・国会の地位と構成・権限、議院内閣制のしくみ、内閣総理大臣の権限、行政の民主化について、理解している。</p> <p>b：・選挙のしくみ、政党の役割、世論の形成について、さまざまな情報手段を活用して、考察、構想し、表現している。</p> <p>・地方自治には、直接民主制に基づくしくみが、国政よりも多く取り入れられていることを理解しつつ、地方自治の課題についても考察、構想し、表現している。</p> <p>c：政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	定期 考査 確認 テスト	定期 考査 課題 提出	課題 提出 振り返り シート
		<p>主題5 国際社会と国家主権</p> <p>1国家と国際法</p> <p>2国境と領土問題</p> <p>3国際連合の役割と課題</p>	<p>a：国際社会と国家主権に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</p> <p>b：・国際法の意義と役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>・国際社会と国家主権について、国境や領土をめぐる諸課題を主体的に解決するために、必要な情報を収集し、考察、構想している。</p> <p>・国際連合などの国際機関の役割や課題について、国際平和の維持と安定のために広い視野に立って考察、構想したことを、論拠をもって表現している。</p> <p>c:国際社会と国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	定期 考査 確認 テスト	定期 考査 課題 提出	課題 提出

※令和4年度以降入学生用

2学期	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	<p>主題6 日本の安全保障と防衛</p> <p>1 平和主義と安全保障</p> <p>2 核兵器の廃絶と国際平和</p>	<p>a：日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるように、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</p> <p>b：・日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>・核兵器を廃絶するためには何が必要かを考え、軍縮の意義や効果について、さまざまな観点から考察している。</p> <p>c：日本の安全保障と防衛について、国連憲章や日米安全保障条約、平和主義を掲げる日本国憲法の下、現代の諸課題の解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。</p>	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	課題提出
		<p>主題7 国際社会の変化と日本の役割</p> <p>1 今日の国際社会</p> <p>2 人種・民族問題と地域紛争</p> <p>3 国際社会における日本の役割</p>	<p>a：・国際社会の変化と日本の役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</p> <p>・人種・民族問題と地域紛争の実態、難民問題に関する資料を、さまざまな情報手段を用いて収集し、課題の解決に向けて、国際社会では何がおこなわれているか、理解している。</p> <p>b：・変化する国際情勢の中で、日本の安全が平和の維持といかに関連しているか、広い視点に立って理解し、さまざまな観点から考察している。</p> <p>・持続可能な開発（SDGs）にふれながら、国際社会の安定について、国民レベル、国家レベル、国際レベルで何ができるかを、さまざまな観点から考察し、論拠をもって表現している。</p> <p>c：国際社会の変化と日本の役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	課題提出 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

2学期	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	<p>主題8 雇用と労働問題</p> <p>1 私たちと経済</p> <p>2 労働者の権利と労働問題</p>	<p>a: ・仕事と生活との調和という観点から、雇用と労働問題に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</p> <p>・企業・家計・政府の三つの経済主体を考え、経済的な主体となる私たちは、どのように経済活動に参加しているのか、理解している。</p> <p>b: ・雇用と労働問題について、日本の雇用慣行の崩れなど、現代の諸課題を主体的に考察、構想し、論拠をもって表現している。</p> <p>・近年の雇用事情の変化とさまざまな労働問題について、具体例をあげて多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。</p> <p>c: 雇用と労働問題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。</p>	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	課題提出 振り返りシート
		<p>主題9 社会の変化と職業観</p> <p>1 技術革新の進展と産業構造の変化</p> <p>2 企業の活動</p> <p>3 農林水産業の現状とこれから</p>	<p>a: 社会の変化と職業観について、人工知能の進化の影響など、現代の諸課題を理解している。</p> <p>b: ・技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化、経済のサービス化・ソフト化について、身近な問題と関連させて考察、構想し、論拠をもって表現している。</p> <p>・企業の役割や種類から、株式会社のしくみや企業の社会的責任について考察、構想し、論拠をもって表現している。</p> <p>・農林水産業の現状と今後について、さまざまな情報を基に考察、構想し、論拠をもって表現している。</p> <p>c: 社会の変化と職業観について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。</p>	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	課題提出

※令和4年度以降入学生用

2学期	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	<p>主題 10 市場経済の機能と限界</p> <p>1市場経済と経済運営 2市場経済のしくみ 3経済発展と環境保全 4経済背長と国民福祉</p>	<p>a：・経済の基本的なしくみと資本主義経済、社会主義経済の特徴を理解している。</p> <p>・市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</p> <p>b：・価格の変化が、消費者と企業の行動にどのような影響を及ぼしているか、さまざまな観点から多面的・多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。</p> <p>・市場機能の限界に対する公共財の供給について、政府の役割を多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。</p> <p>・外部不経済の典型例である公害について理解し、公害を防止し環境を保全するための方策について考察、構想し、論拠をもって表現している。</p> <p>・経済成長が生活に与える影響を、具体的事例をあげて考察している。</p> <p>c：市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	課題提出 振り返りシート
		<p>主題 11 金融のはたらき</p> <p>1金融の意義や役割</p>	<p>a：・金融のはたらきに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</p> <p>・資金の流れ、金融機関の役割、日本銀行の役割について理解している。</p> <p>b：家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>c：金融のはたらきについて、現代の諸課題を主体的に取り組もうとしている。</p>	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	課題提出

※令和4年度以降入学生用

3学期	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	<p>主題 12 財政の役割と社会保障</p> <p>1 政府の経済的役割と租税の意義</p> <p>2 社会保障と国民福祉</p>	<p>a : 財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</p> <p>b : ・ 財政政策の意義、日本の財政の課題を理解し、財政のしくみ、租税の意義と課題について、具体的に事例をあげて考察、構想し、主体的に考えている。</p> <p>・ 社会保障の意義を理解し、現在の社会保障の課題について考察している。</p> <p>・ 社会保障制度の充実・安定化に関し、各国の租税負担など財政状況を比較しながら、日本の社会保障制度の諸課題を多面的・多角的に考察、構想、表現している。</p> <p>c : 財政の役割と社会保障について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	課題提出 振り返りシート
		<p>主題 13 経済のグローバル化</p> <p>1 国際分業と国際貿易体制</p> <p>2 国際収支と為替相場</p> <p>3 経済のグローバル化と日本</p> <p>4 地域的経済統合の動き</p> <p>5 国際社会における貧困や格差</p> <p>6 地球環境問題</p> <p>7 資源・エネルギー問題</p> <p>8 国際社会のこれから</p>	<p>a : ・ 経済のグローバル化に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</p> <p>・ グローバル化の進展により、貧困や格差の問題、地球環境問題などの解決が、地球的な課題となっていることを理解している。</p> <p>・ 国際経済問題の解決には、国家や国際機構などの多様な組織による協力が重要であることを理解している。</p> <p>・ 地域的経済統合がもたらす影響について理解している。</p> <p>・ 国際社会における貧困や格差が解消されていない現状について、国際機構の役割や政府開発援助の意義が大きいことを理解している。</p> <p>・ 資源の有限性を理解しつつ、新エネルギーなどの開発が期待されていることを理解している。</p>	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	課題提出 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

3 学期	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	<p>主題 13 経済のグローバル化</p> <p>1国際分業と国際貿易体制 2国際収支と為替相場 3経済のグローバル化と日本 4地域的経済統合の動き 5国際社会における貧困や格差 6地球環境問題 7資源・エネルギー問題 8国際社会のこれから</p>	<p>b：・貿易の意義、円高・円安が生じる理由、貿易摩擦などについて、考察、構想し、表現している。</p> <p>・地球環境問題が国際的な問題になっていることや、その解決に向けての取り組みを考察、構想し、表現している。</p> <p>・地理など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>c：国際協力のあり方、国際協調の重要性から、日本の役割について自分自身の問題として、主体的に解決しようとしている。</p>	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	課題提出 振り返りシート
	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	<p>①地球環境問題～排出量取引を考える ②資源・エネルギー問題～ベストミックスを考える ③生命倫理～ゲノム編集を考える ④情報～インターネットによる投票を考える ⑤国際社会の課題～フェアトレードを考える</p>	<p>a：地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。</p> <p>・課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。</p> <p>・現代の諸課題を、「第1編 公共の扉」で学んだことを基に、幸福、正義、公正や公共的な空間における基本的原理を用いて、考察、構想し、論拠をもって表現している。</p> <p>c：現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	定期考査 確認テスト	定期考査 課題提出	課題提出 振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	2001
------	------

令和5年度 公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	「高校倫理 新訂版」(実教出版)						
副教材等	「アプローチ 倫理資料」(東京法令出版)						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・思想や宗教の学習においては、自らの生き方、在り方への関心を高めると同時に、他者とともに生きるという視点が必要である。 ・自己の人格形成と、よりよい社会のあり方を探ることを通してよき公民としての資質を養うことが大切である。 ・先哲の思想を学ぶことは、同時に現代の問題にかかわるという視点が肝要である。思想や宗教の学習においては、自らの生き方、在り方への関心を高めると同時に、他者とともに生きるという視点が必要である。 ・自己の人格形成と、よりよい社会のあり方を探ることを通してよき公民としての資質を養うことが大切である。 ・先哲の思想を学ぶことは、同時に現代の問題にかかわるという視点が肝要である。

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の意義や課題を理解して、主体的に自己の人格形成に努め、社会における自己の役割を自覚させる。 ・先哲の考え方、生き方を手がかりにさまざまな価値を学ぶことを通して、よりよい自己、よりよい社会を主体的に探究することの意義を自覚させる。 ・国際社会の中での日本人としての自覚を促し、日本の伝統文化の一端に触れさせる。 ・現代社会が抱える諸課題に主体的にかかわり、倫理的かつ論理的な思考を駆使してその問題の解決策を探究する資質を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	現代の社会と人間にかかわる事項に対する知識を深め、多角的に考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解している。 資料から適切な情報収集し、異なった価値観を理解できる。	他社と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見出し、人間の存在や価値について多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断してその過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	古今東西のさまざまなものの見方考え方を理解し、現代社会が抱える倫理的課題に主体的にかかわる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

※令和4年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1編 第1章 青年期の課題と自己	第1節 青年期の意義 1 人間とは何か 2 青年期とは何か 第2節 青年期の課題 1 自己形成の課題 2 自立への課題	a: 自己形成に関する知識を身に着け、青年期の意義を理解できている。 b: 他者とともに生きるという視点で、情報を積極的に活用できる。 c: 自己形成の過程に関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
	第1編 第2章 人間としての自覚	第1節 ギリシア哲学 1 自然哲学とソフィスト 2 ソクラテス 3 プラトン 4 アリストテレス 5 ヘレニズム時代の思想 第2節 キリスト教 1 古代ユダヤ教 2 イエス 3 キリスト教の誕生と展開 第3節 イスラーム 第4節 仏教 1 仏教以前のインド思想 2 ブッダの教え 3 大乘仏教の成立とその教え 第5節 中国思想 1 「道」の自覚—孔子 2 儒家思想の展開 3 老荘思想 第6節 芸術と人生	a: ギリシア思想、キリスト教、イスラーム、仏教、中国思想などの基本的な考え方について、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題であることに気づき、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 b: 人生における哲学、宗教などのもつ意義から、自己および人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を見いだし、ギリシア思想、キリスト教、イスラーム、仏教、中国思想などの考え方を手掛かりとして多面的・多角的に考察し探究するとともに、人間としての在り方生き方について広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。また、それらを考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c: 人生における哲学、宗教などのもつ意義に対する関心を高め、それらのもつ自己および人間の存在や価値にかかわる課題を意欲的に探究し、人間としての在り方生き方について考えようとしている。	定期考査	定期考査	レポート ワークシート

※令和4年度以降入学生用

2学期	第1編 第3章 日本人としての自覚	<p>第1節 古代日本人の思想</p> <p>1 日本の風土と日本人の気質</p> <p>2 神とのかかわりと道德観</p> <p>第2節 日本の仏教思想</p> <p>1 仏教の受容</p> <p>2 仏教の日本的展開</p> <p>3 仏教と日本文化</p> <p>第3節 近世日本の思想</p> <p>1 儒教の受容と朱子学</p> <p>2 日本陽明学</p> <p>3 日本字的儒学の形成</p> <p>4 国学の形成</p> <p>5 民衆の思想</p> <p>6 幕末の思想</p> <p>第4節 西洋思想の受容と展開</p> <p>1 啓蒙思想と自由民権運動</p> <p>2 キリスト教の受容</p> <p>3 国家主義の台頭と 社会主義思想</p> <p>4 近代的自我の確立</p> <p>5 近代日本哲学の成立と 超国家主義</p> <p>6 伝統の自覚と新たな課題</p>	<p>a: 日本の風土や伝統、仏教や儒教、西洋思想などの外来思想の受容と吸収に関して、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質を、生きる主体としての自己確立の課題と結び付けて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。</p> <p>b: 古典や生活慣習などをもとに、日本の風土や伝統について考察し、仏教や儒教、西洋思想などの外来思想の受容と吸収について学習しながら、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について多面的・多角的に考察し、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について探究するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。また、それらを追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。</p> <p>c: 日本の風土や伝統、外来思想の受容に対する関心を高め、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について意欲的に探究し、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について考えようとしている。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
-----	-------------------------	---	---	------	------	----------------

※令和4年度以降入学生用

2 学 期	第2編 第1章 現代に生きる人間の倫理	<p>第1節 人間の象徴</p> <p>1 ルネサンス</p> <p>2 宗教改革</p> <p>3 モラリスト</p> <p>第2節 科学・技術と人間</p> <p>1 近代の自然観</p> <p>2 新しい学問の方法</p> <p>第3節 民主社会と自由の実現</p> <p>1 民主社会の形成</p> <p>2 人格の尊厳—カント</p> <p>3 人倫—ヘーゲル</p> <p>第4節 社会と個人</p> <p>1 個人と社会との調和</p> <p>2 社会の進歩</p> <p>3 社会の変革</p> <p>4 主体性の自覚</p> <p>第5節 人間への新たな問い</p> <p>1 理性の深層への反省</p> <p>2 言葉への反省</p> <p>3 理性の働きへの反省</p> <p>4 他者へのまなざし</p> <p>第6節 社会参加と幸福</p> <p>1 生命への畏敬と 非暴力の思想</p> <p>2 正義と福祉</p> <p>3 社会の中の人間</p>	<p>a:ルネサンス以後、現代に至る西洋思想の形成と展開について、合理的精神、民主社会の倫理、科学技術文明の在り方、人間の尊厳の自覚などについて、自己の生き方とつなげて理解し、社会参加や自己実現ともかかわりながら、人格の形成に生かす知識として身に付けている。</p> <p>b:現代に生きる人間が直面する諸課題について、ルネサンス以後、現代に至る西洋思想の形成と展開を手掛かりとして多面的・多角的に考察し、倫理的な見方や考え方を身に付け、他者と共に生きる自己の生き方にかかわるかを広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。また、それらを追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。</p> <p>c:現代に生きる人間が直面する諸課題に対する関心を高め、倫理的視点から意欲的に追究し、他者と共に生きる自己の生き方について考えようとしている。</p>	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
-------------	---------------------------	---	--	------	------	----------------

令和5年度 公民科

教科	公民科	科目	政治・経済	単位数	2単位	年次	2・3年次
使用教科書	詳述 政治・経済 (実教出版)						
副教材等	政治・経済資料2023 (東京法令出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・授業はプリントを中心にすすめていく。
- ・グループワーク等も行っていく予定なので積極的に授業に参加することを期待する。
- ・単に用語を覚えるのではなく、人間と社会の在り方についての見方、考え方を身に付け、現代における諸課題を追究したり解決しようとする中で、社会の形成者としての資質・能力の育成を目指す。そのため、定期考査だけでなく、授業中の取り組みや成果等も評価してゆく。
- ・授業では、共通テストや私立大学の入試に対応すべく、進めていくことになるため、教科書だけでなく、資料集の利用や時事的な事項等のピックアップも随時実施してゆく。

2 学習の到達目標

- ・民主主義の本質に関する理解を深めることができる。
- ・現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解することができる。
- ・現在の諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	現代の社会にかかわる事柄を事実をもとに多面的・多角的に考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解している。 様々な資料等から適切かく効果的に情報を得て、まとめる技能を身に付けている。	現代の社会にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質について多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現したり、議論したりする能力を身に付けている。	現代の社会にかかわる諸課題の把握やその解決等、よりよい社会の実現に向けての考察や議論等の経験を通して、合意形成や社会参画への自覚を高めている。
評 価 方 法	定期考査 ワークシート等	定期考査 ワークシート等	ワークシート 提出物等

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめる。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c			
1学期	現代の政治	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の基本原理 ・日本国憲法の基本的性格 ・日本の政治機構 ・現代日本の政治 	○	○	○		a: 民主政治のあり方について理解している。 b: 日本国憲法の現在のあり方について考察している。 c: 新聞等の資料から現代の政治の特質をまとめているとともに、日常生活をつながるものとして把握している。	定期考査 ワークシート 提出物等
2学期	現代の政治・現代の経済	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の国際政治 ・経済社会の変容 ・現代経済のしくみ ・現代経済と福祉の向上 	○	○	○		a: 国際社会におけるわが国のあり方について理解している。また現代における経済社会の仕組みを理解している。 b: 日常生活と経済活動の関連性について思考を深めている。 c: 株や為替の動きについて、新聞などの資料をもとにまとめるなど整理している。また、財政政策や金融政策、国民経済計算などについて事柄と、自分の生活とのかかわりをしっかりと自覚し、考察する。	定期考査 ワークシート 提出物等
3学期	現代の経済・現代社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・世界経済と日本 [主題学習] <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の変貌と住民生活 ・雇用と労働をめぐる問題 ・これからの社会保障のあり方 ・国際経済格差の是正と国際協力 ・地球環境問題 ・主権者になるということ 等 	○	○			a: わが国と世界経済との関連性について理解している。 b: 労働や社会保障制度について、自らの将来と関連付けて思考を深めている。 c: 地域社会の活動を理解し、その特色をまとめている。 また、世界経済の現状やその問題点、さらにはそれらの原因についての考察を様々な手段を用いて、取り組んでいる。	定期考査 ワークシート 提出物等

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現
c:主体的に学習に取り組む態度

・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

令和5年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史B	単位数	4単位	年次	2年次または3年次
使用教科書	世界史B (東京書籍出版)						
副教材等	アカデミア世界史 (浜島書店)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

歴史は繰り返す 繰り返すからこそ歴史である。
歴史に学び、現代の世界を読みとく。

2 学習の到達目標

歴史的思考力を高め、その法則性を感じ取る。
人類の営みを古代から学習し、繰り返されてきたグローバル化の特徴を理解し世界を読み取る。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、国際関係の発展と現代世界に積極的に関与する姿勢。	世界が抱えてきた諸問題を理解し歴史的にどのような方法で乗り越えてきたを考え、現代世界に対応する思考。	諸資料や年表、国際関係の構図を理解しまとめる、また発表等によって自己の考えをまとめていく。	歴史的事象とその関連性を把握し、現代世界が抱える諸問題にアプローチする。
評 価 方 法	定期考査 ワークシート 〔主題学習〕 振り返りシート	定期考査 ワークシート 〔主題学習〕 グループ発表	定期考査 ワークシート 〔主題学習〕 グループ発表	定期考査 ワークシート 〔主題学習〕 レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
二年次一学期	さまざまな地域世界	<ul style="list-style-type: none"> ・文明以前の人類 ・オリエント世界と東地中海世界 ・地中海世界と西アジア ・東アジア世界 ・中央ユーラシア世界 ・東南アジア世界 ・アフリカ・オセアニア・古アメリカの地域世界 	○	○	○	○	a: 各地の気候風土を理解し各地の文明について関心を高めている。 b: 諸文明の交流をグローバルな視点で考察している。 c: 資料、芸術品等から諸文明の特質をまとめている。 d: 古代文明と今につながるものを把握している。	ワークシート
二年次二学期	広域世界の形成と交流	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム世界の形成 ・ヨーロッパ世界の形成 ・東アジア世界の変容とモンゴル帝国 ・海域世界の発展と東南アジア 	○	○	○	○	a: 宗教と政治、国家との関係について関心を高めている b: 諸地域の国家と経済活動の関連性について思考を深めている。 c: 世界的な人、物の動きを地図にまとめるなど整理している。 d: 文明、文化についての知識が身につけており、その交流、移動について理解を深めている。	定期考査
二年次三学期	一体化する世界	<ul style="list-style-type: none"> ・大交易時代 ・ユーラシア諸帝国の繁栄 ・近代のヨーロッパ ・欧米における工業化と国民国家の形成 [主題学習] <ul style="list-style-type: none"> ・日本と世界の動きについてグループごとにテーマを設定しまとめている 	○	○	○	○	a: ヨーロッパ世界の世界進出により諸地域に及ぼした影響を考え関心を高めている。 b: 世界のつながりによる経済活動と各国の政治活動について特徴を捉えている。 c: 地域別の活動を理解し、どういった経緯で融合していくかをまとめている。 d: 主権国家の概念と現在の国家との比較をおこない、その違いについて理解を深めている。	定期考査 グループ作業 ワークシート

※令和3年度以前入学生用

<p>三年次一学期</p>	<p>地球世界の形成と課題</p>	<p>・産業資本主義の発展と帝国主義 ・アジア諸地域の変革運動</p>	<p>○ ○</p>	<p>○ ○</p>	<p>○ ○</p>	<p>a: 産業革命による工業化がもたらす新たな世界秩序について理解を深め、現代世界との関連性に関心を高めている。 b: 植民地の意味とその構造を政治面と絡めて考察している。 c: ヨーロッパ列強の進出による諸地域での変化、もたらしたものと失ったものを整理している。 d: 世界の潮流と日本の変化の関係について、政治、経済、文化面から確認している。</p>	<p>定期考査 実力考査 グループ作業</p>
<p>三年次二学期</p>		<p>・世界戦争の時代 ・戦後世界秩序の形成</p>	<p>○</p>	<p>○ ○</p>	<p>○ ○</p>	<p>a: 産業革命による工業化がもたらす新たな世界秩序について理解を深め、現代世界との関連性に関心を高めている。 b: 植民地の意味とその構造を政治面と絡めて考察している。 c: ヨーロッパ列強の進出による諸地域での変化、もたらしたものと失ったものを整理している。 d: 世界の潮流と日本の変化の関係について、政治、経済、文化面から確認している。</p>	
<p>三年次三学期</p>	<p>地球世界の形成と課題</p>	<p>・情報革命と世界経済の一体化</p>	<p>○ ○ ○</p>	<p>○ ○ ○</p>	<p>○ ○ ○</p>	<p>a: 現代の世界の動きを新聞・ニュース等で積極的に集め追求している。 b: 現代世界の動きと日本の対応について考察を深めている。 c: 具体的な課題について世界の情勢を分析しまとめている。 d: 現代世界の大きな変化を把握し、それが及ぼす影響について理解している。</p>	

令和5年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史B	単位数	4単位	年次	2年次または3年次
使用教科書	『詳説日本史B』（改訂版）（山川出版社）						
副教材等	『図説日本史通覧』（帝国書院）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・過去の一点一点が「現在」につながっていることを認識し、現代社会が直面する諸課題について主体的に考察し、より良い社会を構築するヒントとする。
- ・これから世界をフィールドに活躍する際に、現在自分が生きる国の歴史や在り方について必要な知識と理解を持つことにより、他国や異なる文化を理解し、尊重する姿勢を養うことができる。
- ・歴史は実証的な学問である。つねに公正かつ客観的な視点を持ち、歴史的事象を多面的かつ多角的に捉えることができる柔軟な視点が必要である。

2 学習の到達目標

私たちが生きる日本の歴史の展開を、世界の歴史や地理的な諸条件と関連づけて、諸資料に基づき客観的かつ公正に考察させるとともに、日本の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力および判断力を培い、国際社会に主体的に生きる人間としての自覚と資質を養う。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、地域社会や異文化の歴史・文化を尊重し、国際社会に生きる人間として主体的に考察しようとする。	現代日本の諸課題を歴史的観点から考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	日本の歴史に関する諸資料から有用な情報を活用して探求し、自身の考えを論述したり、図表にまとめたりしている。	日本の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期(二年次)	日本文化のあけぼの	<ul style="list-style-type: none"> 文化の始まり 農耕社会の成立 古墳と大和政権 	○	○	○	○	a: 時代ごとの社会や文化の特色を自然環境の変化や大陸との影響に着目してとらえることができる。 b: 東アジア世界との交流と社会の変化の過程を関連づけて考察する。 c: 文献資料や考古資料から客観的かつ多角的に情報を読み取ることができる。 d: 国家形成にいたるまでの基本的な知識を身に付け、その過程を理解する。	ワークシート
	律令国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> 飛鳥の朝廷 律令国家への道 平城京の時代 天平文化 平安王朝の形成 	○	○	○	○	a: 律令国家が形成されるまでの過程と地方支配の動揺について多面的・多角的に考察する。 b: 政権運営や文化の形成について、大陸との交流や仏教の需要を踏まえて考察する。 c: 文献資料を基に政治抗争の進展と土地制度の変容を読み取ることができる。 d: 律令に基づく政治体制や諸制度、国家仏教の興隆によりもたらされた仏教文化の持つ特色について基本的な知識を身に付ける。	ワークシート
二学期(二年次)	貴族政治と国風文化	<ul style="list-style-type: none"> 摂関政治 国風文化 地方政治の展開と武士 	○	○	○	○	a: 律令体制の変容や国際関係の変化、荘園の展開を踏まえて政治運営や武士の台頭を考察する。 b: 藤原氏の権力掌握の過程と武士の成長や反乱などから中世社会の萌芽を見いだす。 c: 文献資料を活用し、地方支配の変質を客観的に読み取ることができる。 d: 貴族を中心とする政治や社会の在り方と貴族の生活・文化を理解する。	定期考査 ワークシート

	中世社会の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・院政と平氏の台頭 ・鎌倉幕府の成立 ・武士の社会 ・蒙古襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化 	○	○	○	○	<p>a:政治の動向、対外関係、経済や社会への政権の対応を踏まえて、武家政権の成立と変容について考察する。</p> <p>b:武家政権の成立過程およびその変容について、社会の変化を踏まえて多角的、客観的に考察する。</p> <p>c:絵画資料や文献資料を読解し、武士の生活や土地支配をめぐる地頭と荘園領主との紛争、仏教の新たな展開を読み取る。</p> <p>d:院政の政治構造、武家政権の成立過程および封建制度の成立などについて基本的な知識を身に付ける。</p>	ワークシート
三学期(二年次)	武家社会の成長	<ul style="list-style-type: none"> ・室町幕府の成立 ・幕府の衰退と庶民の台頭 ・室町文化 ・戦国大名の登場 	○	○	○	○	<p>a:庶民文芸の流行、戦乱の中で中央と地方の文化的交流の活発化を踏まえて、現代につながる地域文化の特色について考察する。</p> <p>b:南北朝の動乱、室町幕府の成立、応仁の乱、戦国大名の登場にいたるまでの過程を、社会の変容を踏まえて考察する。</p> <p>c:文献資料や絵画資料から東アジア世界との貿易や一揆の発生などが幕府や社会に与えた影響を読み取る。</p> <p>d:諸産業の発達による中世社会の多様な展開や都市の発達を踏まえて、戦国期の日本の多様性を理解し、基本的な知識を身に付ける。</p>	定期考査 ワークシート
一学期(三年次)	幕藩体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・織豊政権 ・桃山文化 ・幕藩体制の成立 ・幕藩社会の構造 	○	○	○	○	<p>a:世界史的な背景を踏まえて、織豊政権、幕藩体制確立過程および確立期の経済・社会を多角的に考察する。</p> <p>b:ヨーロッパや東アジアの動向、兵農分離策を踏まえて織豊政権の特色や意義、次の幕藩体制につながる影響を考察する。</p> <p>c:文献資料や絵画資料から、政策の内容や意図を読み取る。</p> <p>d:桃山文化の特色や幕藩体制下の支配体制、特質などについて基本的な知識を身に付ける。</p>	ワークシート

幕藩体制の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・幕政の安定 ・経済の発展 ・元禄文化 	○	○	○	○	<p>a:幕政の安定期について、諸産業の発展やその社会的役割を踏まえ、平和と秩序の確立の視点から考察する。</p> <p>b:文治政治の転換から元禄文化について、町人の経済的繁栄を踏まえ、社会の変化と関連させて考察する。</p> <p>c:文献資料や絵画資料から諸産業および経済の発達、それに対する諸政策の内容や意図を読み取る。</p> <p>d:諸産業や経済の発展を踏まえ、安定期の幕政の諸政策について理解する。</p>	ワークシート
幕藩体制の動揺	<ul style="list-style-type: none"> ・幕政の改革 ・宝暦・天明期の文化 ・幕府の衰退と近代への道 ・化政文化 	○	○	○	○	<p>a:幕藩体制が動揺する中、行われた諸改革および近代化の基盤形成について、産業経済面や軍事面から考察する。</p> <p>b:国際情勢の変化やそれに対する幕政の対応を踏まえて、幕府の衰退と雄藩の出現過程を考察する。</p> <p>c:文献資料・絵画資料などから幕府や諸藩の諸政策の内容やその意図、化政文化における近代化への萌芽を読み取る。</p> <p>d:列強の接近に伴う対応や社会の変容を踏まえた、諸改革の内容を理解する。</p>	定期考査 ワークシート
近代国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・開国と幕末の動乱 ・明治維新と富国強兵 ・立憲国家の成立と日清戦争 ・日露戦争と国際関係 ・近代産業の発展 ・近代文化の発達 	○	○	○	○	<p>a:東アジアをめぐる国際環境が変容する中、新政府の制度改革や経済政策などに着目して近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。</p> <p>b:国家的統一がなされる中、国家的課題であった条約改正交渉が進展した過程や開戦に至る経緯について諸外国の動向と関連づけて考察する。</p> <p>c:文献資料などから政府の諸政策の内容およびその意図、社会的影響などを読み取る。</p> <p>d:国際化の中で進められた近代国家の政治・社会・経済の発展について、問題点も含めて客観的に理解する。</p>	ワークシート

	二つの世界大戦とアジア	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制 	○	○	○	○	<p>a: 国際社会における第一次世界大戦前後の政治の動向や社会運動の動向について関心を持ち、政党内閣の成立などと関連付けて考察する。</p> <p>b: 国際環境の推移を踏まえ、政府の国内・対外政策について日本の立場に着目して考察する。</p> <p>c: 文献資料などから政府当時の国際情勢と日本政府の動向を客観的に読み取る。</p> <p>d: 第一次世界大戦が日本の社会や経済にもたらした影響についてその内容もふくめて客観的な知識を身に付けている。</p>	定期考査 ワークシート
二学期(三年次)		<ul style="list-style-type: none"> ・市民生活の変容と大衆文化 ・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦 	○	○	○	○	<p>a: 第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。</p> <p>b: 日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について客観的に考察する。</p> <p>c: 文献資料などから政府当時の国際情勢と政府の対応について客観的に読み取る。</p> <p>d: 恐慌などの経済的事象や大戦についての基本的な知識を身に付け、客観的にかつ公正に理解する</p>	ワークシート
三学期(三年次)	占領下の日本	<ul style="list-style-type: none"> ・占領と改革 ・冷戦の開始と講和 	○	○	○	○	<p>a: 連合国による日本占領の終結とその後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。戦後政治の動きを踏まえて、日本国憲法制定の意義を理解する。</p> <p>b: 戦後の世界秩序と東アジア情勢の変化を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革の経緯と内容、日本が独立した意義について客観的に考察する。</p> <p>c: 文献資料などから、諸政策の内容や意図を読み取る。</p> <p>d: 戦後の占領政策や冷戦の開始と講和について客観的な知識を身に付け、理解する。</p>	ワークシート

令和5年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理B	単位数	4単位	年次	2年次または3年次
使用教科書	新詳地理B（帝国書院） 標準高等地図（帝国書院）						
副教材等	初訂版最新地理図表GEO（第一学習社） 地理統計要覧（二宮書店）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学校における社会科の学習をもとに、教科書・資料集・統計も活用しながら学習をすすめます。特に地理の学習においては「どこに、なにが、なぜ分布しているのか」を踏まえて考察を深めることが求められます。したがって特に地図帳は重要なツールとなります。常に地図帳を横に置き学習をすすめていきましょう。

2 学習の到達目標

- ・現代世界の地理的事象について系統地理的に、現代世界の諸地域について歴史的背景を踏まえて地誌的に考察する。
- ・地理的な技能を身につけ、自分の生活する地域や社会への理解を深める。
- ・現代世界の諸課題を認識するとともに、主体的に社会に関わろうとする意欲をもつ。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	現代世界の地理的事象について系統地理的に、また現代世界の諸地域について歴史的背景を踏まえて地理的に考察し。現代世界への地理的認識や地理的見方・考え方に 関する関心と課題意識を高める。	現代世界の地理的事象から課題を見出し、それを系統地理的に、また歴史的背景を踏まえて地誌的に考察するとともに、社会の変化を踏まえて公正に判断しようとする。	地図や統計、画像等の諸資料を収集し、有用な情報を選択・活用することを通して、地理情報を地図の活用に関する技能を身につける。	・現代世界の諸事象を系統地理的に考察する方法と現代世界の諸地域を地誌的に考察する方法を理解する。 ・現代世界に関する地理的認識や地理的な見方・考え方を理解する。
評 価 方 法	提出物等	定期考査 提出物等	定期考査 提出物等	定期考査 提出物等
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
2年1学期	地図と地理的技能	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の発達 ・地図の種類とその利用 ・地理情報の地図化 ・地図の活用と地域調査 	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○ ○	<p>a: 地図の有用性に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。</p> <p>b: 地理情報を地図化するにあたり、どのような表現方法を用いれば適切な地図をつくることができるかを考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>c: 地理情報を地図化する際、情報の特性に応じて地図の形態を使い分け、適切な統計地図を用いることができる。</p> <p>d: 球体としての地球の特徴と位置を地球儀に表示する方法、これを地図に表現した場合の各図法の長所短所を理解し、その知識を身につけている。</p>	定期考査 提出物等
	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の地形 ・世界の気候 ・日本の自然の特徴と人々の生活 ・環境問題 	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	<p>a: 世界と日本の環境問題の原因、影響、対策に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。</p> <p>b: 世界と日本の環境問題の原因、影響、対策について、自然環境の学習内容などに関連付けて多面的・多角的に考察し、特徴や地域的な分布、今後の課題などについて適切にまとめ、表現できる。</p> <p>c: 写真、地形図、雨温図などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、その特徴や相違点などを読み取ることができる。</p> <p>d: 世界の地形や気候について、系統地理的にとらえる視点や考察方法、人間生活への影響などを理解し、その知識を身につけている。</p>	定期考査 提出物等

※令和3年度以前入学生用

2年2学期	資源と産業	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の農林水産業 ・食料問題 	○	○	○	○	<p>a: 発展途上国や先進国及び日本の食料問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとする。</p> <p>b: 発展途上国や先進国及び日本の食料問題の状況とその成因を系統地理的にとらえる視点や考察方法を身につけ、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>c: 農林水産業の生産や分布の特徴に関する諸資料から、有用な情報を適切に選択し、農林水産業の現状や課題について適切に読み取ることができる。</p> <p>d: 世界の農林水産業について、自然条件や社会条件の違いと関連付けて農業の地域区分や各農業の特徴を理解し、その知識を身につける。</p>	定期考査提出物等
		<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー・鉱産資源 ・資源・エネルギー問題 	○	○	○	○	<p>a: 資源・エネルギー問題について、生産・消費の不均衡をはじめとする問題の動向に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとする。</p> <p>b: 資源・エネルギー問題について、生産と消費の不均衡や利用法の課題、石油をめぐる国際情勢の背景やこれからのエネルギー利用のあり方などを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>c: エネルギー資源や鉱産資源の生産や分布に関する統計などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、資源ごとの特徴や問題点について読み取ることができる。</p> <p>d: 世界のエネルギー・鉱産資源について、その種類や分布、主な利用法などを理解し、その知識を身につけている。</p>	定期考査提出物等

※令和3年度以前入学生用

2年3学期	資源と産業	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の工業 ・第3次産業 ・世界を結ぶ交通・通信 ・現代世界の貿易と経済圏 	○	○	○	<p>a: 第3次産業について、近年の動向や地域差に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとする。</p> <p>b: 工業の立地や発達に影響を及ぼす自然条件や社会条件をふまえて工業地域の発達と変化について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>c: 工業生産や商業、サービス業の動向に関する統計などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、特徴や課題について読み取ることができる。</p> <p>d: 工業、商業、サービス業の発展過程や種類、立地とその変化、現状と課題を理解し、その知識を身につけている。</p>	定期考査提出物等
3年1学期		<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口 ・人口問題 ・村落と都市 ・都市・居住問題 	○	○	○	<p>a: 発展途上国と先進国のそれぞれについて、人口問題・都市問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとする。</p> <p>b: 世界の人口問題・都市問題について、それぞれの課題を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>c: 人口ピラミッド、都市の地域構造などに関する統計や地図などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、特徴や課題について読み取ることができる。</p> <p>d: 世界人口の分布と動態、人口構成の特色と人口転換のしくみ、村落と都市の立地条件や、発達の背景・機能などを理解し、その知識を身につけている。</p>	定期考査提出物等

※令和3年度以前入学生用

3年1学期	生活文化、民族・宗教	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の衣食住 ・民族と宗教 ・現代世界の国家 ・民族・領土問題 	○ ○	○	○	<p>a:世界の衣食住の地域的差異、民族と宗教の分布や人々の生活との関係に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとする。</p> <p>b:世界の衣食住について、地域的差異の背景、その変化と世界的な画一化の要因を、自然環境や社会環境の変化などを踏まえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>c:民族・宗教や領土に関する紛争のデータや事例などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、民族・領土問題における原因の相違点などについて読み取ることができる。</p> <p>d:国境と領域のきまり、さまざまな国家の分類などを理解し、その知識を身につけている。</p>	定期考査提出物等
3年2学期	現代世界の地誌的考察	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア、東南アジア、南アジア、ヨーロッパ (形式的区分) ・ロシア(自然環境による区分) ・アングロアメリカ (文化による区分) 	○ ○	○ ○	○ ○	<p>a:各地域の地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。</p> <p>b:各地域の地域的特色や地球的課題を、項目ごとに整理して静態的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>c:各地域の産業・文化・民族・歴史などに関する統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これらをもとに、各地域の特徴や近年の動向について読み取ることができる。</p> <p>d:各地域を構成する様々な事象を産業・文化・民族・歴史などの項目ごとに整理して、その特色や課題を理解し、その知識を身につけている。</p>	定期考査提出物等

※令和3年度以前入学生用

3年2学期	現代世界の地誌的考察	<ul style="list-style-type: none"> ・ラテンアメリカ (文化による区分) ・オセアニア(形式的な区分) 	○	○	○	○	<p>a: 各地域の地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。</p> <p>b: 各地域の地域的特色や地球的課題を、特徴ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動態的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>c: 各地域の産業・文化・民族・歴史などに関する統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これをもとに、各地域の特徴や近年の動向について読み取ることができる。</p> <p>d: 各地域を構成する様々な事象を特徴ある事象と他の事象を有機的に関連づけて、その特色や課題を理解し、その知識を身につけている。</p>	定期考査提出物等
3年3学期		<ul style="list-style-type: none"> ・西アジアと中央アジア(自然環境による地域区分) ・北アフリカとサハラ以南のアフリカ(文化による地域区分) 	○	○	○	○	<p>a: 各地域の地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。</p> <p>b: 各地域の地域的特色や地球的課題を、類似的または対照的な性格の2つの地域を比較して考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>c: 各地域の産業・文化・民族・歴史などに関する統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に収集して、これをもとに、各地域の特徴や近年の動向について読み取ることができる。</p> <p>d: 各地域の対照的または類似的な性格の2つの地域を比較して、その特色や課題を理解し、その知識を身につけている。</p>	定期考査提出物等

令和5年度 公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「高校倫理 新訂版」 (実教出版)						
副教材等	「アプローチ 倫理資料」 (東京法令出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・思想や宗教の学習においては、自らの生き方、在り方への関心を高めると同時に、他者とともに生きるという視点が必要である。
- ・自己の人格形成と、よりよい社会のあり方を探ることを通してよき公民としての資質を養うことが大切である。
- ・先哲の思想を学ぶことは、同時に現代の問題にかかわるという視点が肝要である。

2 学習の到達目標

- ・青年期の意義や課題を理解して、主体的に自己の人格形成に努め、社会における自己の役割を自覚させる。
- ・先哲の考え方、生き方を手がかりにさまざまな価値を学ぶことを通して、よりよい自己、よりよい社会を主体的に探究することの意義を自覚させる。
- ・国際社会の中での日本人としての自覚を促し、日本の伝統文化の一端に触れさせる。
- ・現代社会が抱える諸課題に主体的にかかわり、倫理的かつ論理的な思考を駆使してその問題の解決策を探究する資質を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	現代の社会と人間にかかわる事項に対する関心を深め、意欲的に課題を追求するとともによりよい社会の実現に向けて参加し、人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとする。	さまざまな思想、価値観、世界観、人生観に触れることで、自己の生き方・在り方を主体的に選択し、かつ異なった価値観を理解しようとする。	資料集の活用など適切な情報収集の技能を身につけ、異なった価値観を排斥するのではなく、理解し、民主的な合意形成をめざす。	古今東西のさまざまなものの見方考え方を理解し、現代社会が抱える倫理的課題に主体的にかかわる。
評 価 方 法	定期考査 授業での観察 レポート	定期考査 定期考査内での 自由論述	定期考査 授業での観察 レポート	定期考査 授業での観察 レポート
上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	現代に生きる自己の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の意義 ・自己の理解 ・豊かな自己実現 	○	○	○	○	a: 青年期における自己形成の意義を理解し、主体的に取り組む。 b: 人間尊重の精神に基づいて自己の在り方を考える。 c: 他者とともに生きるという視点で、情報を積極的に活用する。 d: 現代の倫理的課題に関心を持つ。	定期考査 授業観察 レポート
二学期	人間としての在り方生き方	<ul style="list-style-type: none"> ・人生における哲学 ・人生における宗教 ・人生の知恵 ・人生における芸術 	○	○	○	○	a: 人間の存在や価値への思索を深める。 b: 人生における哲学や宗教の持つ意義について学び、自己の人生観、社会観の形成に生かす。 c: さまざまな視点の存在を知ることによって民主的な合意形成に資する。 d: 現代の諸課題を先哲の思想に照らして考える。	定期考査 授業観察 レポート
三学期	国際社会に生きる日本人の自覚	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の風土と伝統 ・日本人の自然観、人間観、宗教観 ・外来思想の受容 	○	○	○	○	a: 日本人としての自覚に基づいて日本の伝統を振り返る。 b: さまざまな思想家、宗教家の考え方を深める。 c: 国際社会の中での日本人の役割を考える。 d: 現代日本が抱える問題を日本の伝統に即して考える。	定期考査 授業観察 レポート
	現代と倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・現代に生きる人間の倫理 ・現代の諸課題と倫理 	○	○	○	○	a: 人間の尊厳と生命への畏敬についての理解を深める。 b: 民主社会における他者との共生を理解する。 c: 科学技術の進歩と人間や社会の在り方を考える。 d: 諸課題についての理解を深める。	定期考査 授業観察 レポート

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度
c: 技能

b: 思考・判断・表現
d: 知識・理解

※令和3年度以前入学生用

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	2001
------	------

令和5年度 公民科

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	高等学校 改訂版 政治・経済 (第一学習社)						
副教材等	政治・経済資料2023 (東京法令出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業はプリントを中心にすすめていく。 ・グループワーク等も行っていくので積極的に授業に参加すること。 ・ファイルを購入し、プリントの整理をすること。詳しくは初回に指示する。

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・民主主義の本質に関する理解を深めることができる。 ・現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解することができる。 ・現代の諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	現代の社会にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を示すことができる。	現代の社会にかかわる事柄から課題を見出し、社会的事象の本質について多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現することができる。	現代の社会にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用することができる。	現代の社会的事象にかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。
評 価 方 法	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

